



## カテーテル治療により心房中隔欠損症の予後が改善

### <概要>

・心房中隔欠損症は出生 1500 人に 1 人見られる先天性の心臓病で、成人期の先天性心臓病の 50% 近くを占めます。この治療に対する新しい治療法であるカテーテル治療は従来の外科手術を比べ、入院期間の短縮、術後の苦痛の軽減に止まらず、術後の予後も改善させる可能性があることが明らかになりました。

・心房中隔欠損症の新しい治療法であるカテーテル治療は、従来の外科手術と比べ、治療後の心臓の動き、不整脈の発生についても優れている可能性があることが、岡山大学循環器疾患集中治療部のグループの研究で明らかになりました。この結果は 5 月 6-8 日に米国ラスベガスで開催されるカテーテル治療専門学会で発表される予定であり、現地でもその内容に注目が集まっています。

・心房中隔欠損症は出生 1500 人に 1 人見られる先天性の心臓病で、成人期の先天性心臓病の 50% 近くを占めます。従来この病気の治療は外科手術が行われてきましたが、岡山大学ではカテーテルによる低侵襲の治療を進めており、これまで 280 人を越す治療が行われています。これは全国の治療実施数の約 4 分の 1 を占め、治療成功率も 96% です。(4% はカテーテル治療不可能と判断し、後日手術を実施。死亡等の合併症はなし。)

・外科手術、カテーテル治療いずれの治療法を選択した場合でも、病気そのものは治療できますが、これまで手術後に心臓の一部分の動きが悪くなることや不整脈を起こすことが、特に成人期(40 歳以上)の患者で見られていました。我々はこの点に注目して、2 つの治療法を比較してみたところ、いずれの点でもカテーテル治療の方が優れていることが確認されました。

・この原因として、①手術では人工心肺を使って心臓の動きを一時止めて治療するのに対しカテーテル治療ではその必要がないこと、さらに②カテーテル治療では心臓自体に直接傷をつけないためだろうと考えています。

### <お問い合わせ>

岡山大学病院 循環器疾患集中治療部・あかぎていじ赤木禎治

(電話番号) 086-235-7357 (FAX番号) 086-235-7683

(e-mail) t-akagi@cc.okayama-u.ac.jp